

ふるさと探訪

# 気づき・月づ期・思いつ記

## 「リ」のつくカタカナ語

東川町広報二〇〇四年(平成十六)十一月号には『3Rマスケットキャクター決定』、真岩昌美さんの「もつくる」が最優秀作品賞と記載された。

「もつくる」くんには、ごみ減量化運動推進のお手伝いをしていただく予定で、3Rとはリユース・リデュース・リサイクルの頭文字を表わしている。

リユース……できるだけ手を加え



ないで、そのまま何度も使うこと、再使用、繰り返し使うことであるという。

具体的な行動例として、リターナブル瓶や再生紙などのリサイクル商品を扱うようにしたり、プラスチック容器(詰め替え式のシャンプーンなど)を使ったり、古い和洋服はリフォームや雑布に利用したり、フリーマーケットやバザーなどで欲しい人に使ってもらったリするのがリユースなのである。

リデュース……ごみも資源も元から減らす、発生抑制、ごみになるものを買わない、使わないことであるという。

具体的な行動例として、マイバツクを持参して、レジ袋はできるだけ断ったり、食物は残さず、買い物や料理は計画的にしたり、使い捨て容器の食品や飲料などはなるべく買わないようにしたり、過剰包装を断つたりするのがリデュースなのである。

リサイクル……手を加え、再び原材料として使用すること、再利用、資源として再生活用することであるという。

具体的な行動例として、資源となるごみの分別をしたり、町のルールを守ってごみステーションに出したり、コンポストで生ごみを堆肥化したりするのがリサイクルであるという。

具体的な行動例として、徹底した細分別で資源化しやすいようにしてごみ出しをしたり、決められた「ごみの日」に指定袋や分別処置を守ったりするのがリサイクルなのである。

ところで、増え続けるカタカナ語の昨今にあつて、ふと、小学生時代に見聞したカタカナ語はカレ(ライス)・キャンディー・ピスケット・スキー・スケート・バスケット・ゴール・スタート・ピアン・ボール・プラス・マイナス・カレンダーなど、暮らしの中に生きづいた語が多かった。その他には、薬品・衣服・学用品・道具などにもカタカナ語が使われていたが、現在のよつな「日替り造語?」

はごく少数だったと思うが……。

そういえば、第二次世界大戦(太平洋戦争)の戦中には敵性語の追放で、音楽・スポーツ・生活語などのカタカナ語は一切禁止されたのである。なかでも野球用語の和製語には「こじつけ」の無理や滑稽さの目立つたものが多かった。

かわら版(道新)のS記者は「リサイクル・私も」で、牛乳バツク再利用のしがき作りを機に、なるべく余分な袋をもらわず、アルミホイルの歯もはがして分別し、日々できることから取り組もうと語っておられる。

日本語の「もつたない」とは、物資の再使用(リユース)、消費削減(リデュース)、資源再利用(リサイクル)そして修理(リペア)の「四つのR」を実践することだと紹介されたワンガリ・マータイさん(ノーベル平和賞受賞者、ケニア)は「環境保護の合言葉」として世界に広げるとか、さて……。

(元)郷土史編集専門員  
尾池隆男

(おわび) 7月号 × 諦めず 諦めず

人口 / 7,633人(前月比1人) 男 / 3,662人(前月比3人) 女 / 3,971人(前月比 2人)  
世帯数 / 2,984戸(前月比4戸) 出生 / 4人、死亡 / 7人、転入 / 22人、転出 / 20人 【6月30日現在】  
住民登録の手続き上、人口増減と出生・死亡・転入・転出の増減は一致しないことがあります。



本誌の印刷には、大豆インクを使用しています。  
また用紙には再生紙(100%)を使用しています。